

COLUMN

連載 95

仕事について考える

札幌大谷大学社会学部
教授 平岡祥孝

日の長さを実感してくると、もう少いで雪とお別れかと思えます。早く弥生の声が聞きたいものです。

相変わらず人手不足が続いています。ですが、業種や職種によって人気が異なるため、求人と採用に偏りがあります。どうしても事務職採用は競争倍率が高いですね。また、大学生や短大・専門学校生を採用できないならば、高校生を採用する場合も少なからずあります。それゆえ高卒の内定率も高くなっていることは、周知の事実です。

その反面、北海道における新規高卒就職者の離職率は、高止まりしています。たとえば平成27年3月卒業生では、30年3月までの間における離職率は、いわゆる3年以内の離職率は44・8%でした。さらに男女別に見ると、男子は39・8%、女子は50・4%でした(北海道労働局)。女子の場合には、3年以内に2人に1人は職場を去っていることになりました。その原因の1つとして、高校生の採用のあり方が挙げられます。要するに、大学生や短大・専門学校生とは異なり、極めて制約された条件で

の就職活動になっっています。したがって、「こんな仕事もやらされるとは知らなかった」思っていた会社様子は違っていたなど、入社前からイメージ・ギャップが起こる可能性は高いと思います。

私が注視したい点は、新入社員教育の質と量です。かつてのような放任OJTは成り立たないでしょう。とりわけ地元企業ならば、経営者や管理職が過去に体験した自分自身の新人時代を忘れて、白紙で新規高卒就職者に向き合うことが重要で、あくまでも私の独断と偏見ですが、女子の高い離職率の背景には、男女共同参画社会は時代の潮流であるものの、いまだに男社会の考え方が根深く残っていることも遠因ではないでしょうか。意識改革こそ最も困難なことかも知れません。ですが、意識が変われば、行動も変わります。

また、私は高校の教育現場の経験が皆無であるゆえ、軽率の非りを免れないことを承知で一言言わせていただくとすれば、卒業式までの家庭学習期間という名の長期休暇を活用すべきだと思つたのです。まずは原点回歸して、「何のために働くのか」「仕事の本質とは何か」について、丁寧に説明して理解と納得を得る時間を設けることが肝要ではないでしょうか。

そして、社会常識や「ビジネスマ

ナーの確認と徹底を怠ってはなりません。人は「見た目が9割」かも知。そのためには、教員が社会常識やビジネスマナーを身に付けていることが、言うまでもなく前提ですが。コミュニケーション能力もスキルです。特に敬語を正しく使いつつ、面と向き合いながらの年長者との雑談や会話は、高校生にとっては苦手ですね。

基礎学力の面では、やはり日本語の読解力と文章力を鍛えることが、必要不可欠です。就業規則や業務マニュアル、あるいは説明書や契約書など、正しく読んで理解することは仕事の基本でもあります。また、業務日誌や報告書、あるいは企画書や提案書など、実用文を書く機会も頻繁にあります。職場での日本語指導の機会は少ないのではありませんか。

入社早々に能力不足やスキル不足から不安に陥ることのないよう、上級学校や企業とも連携して、高校で職業社会への移行準備を可能な限り対応する必要があると思います。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。高校生・大学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。



みんな*げんき！

しらかは保育園

ゆめ組のみんな

お遊戯室の

スペースブレイでバチリ！

高いところもちゃんとつかまって登れるようになりました。

毎日とっても元気に遊んでいますよ！



町長室から

各団体の新年交礼会も終わり、暦（こよみ）の上では今年立春2月4日を過ぎていますが、1月末には早くも各地で梅の開花宣言がなされ、立春の前日である節分には九州で20度を超える気温で初夏を迎えたようだと報道があつた反面、穏やかな天候が続いていた十勝には今日から史上最強の寒波が押し寄せるので危険な寒さに用心してくださいとの報道もありました。

この季節は日本列島の季節感の違いを強く感じさせる時期でもあります。

国会は厚生労働省の統計調査の不適切問題で揺れており、統計の見直しで昨年の実質賃金の伸び率がマイナスに転じる可能性を指摘されて消費税改定の見直しを求める声が野党から上がっているようです。

日本経済を分析する「消費者物価指数」に係わる統計にも不適切があつたことが発覚するなど、数字自体への信憑性を揺るがすだけでなく世界の信頼を失い、国の根幹を揺るがす事態と

も言えるだけに早期の適正化を図ってもらいたいものです。

トランプ流の外交政策は相変わらず世界を俯瞰して進めるといふことにならないようです。

今月末にベトナムで行われる北朝鮮との会談後は米中首脳会談も行われ、中国との経済的な対立構造を残したまま朝鮮戦争終戦協定も締結されるのではなにかとの観測が広がっています。日本と韓国の間が現在微妙なだけに日本への影響はどのなるのが心配ではありません。

浦幌中学校第2学年の総合的な学習の時間に「浦幌町の現状と課題について」の話をさせていただきますました。

昨年も3年生が「浦幌町の人口増加を目指して」のテーマで、さまざまな角度から調査などを行い、浦幌町への5つの活性化案を示してくれました。

子ども達からの視点は大人では思いつかないこともあり、大変参考になりますし、案の実現に向けて「子どもの想い実現プロジェクト」で検討されています。

今年も2年生が同じテーマで

更なる活性化案を提示する為に学習を深めているところですので、世界では人口が増加している中で先進7ヶ国では唯一人口減少社会である日本を取り巻く現実や浦幌町が取り組んでいる対策など限られた時間の中でしたが、話をさせていただきました。

今年も素晴らしい活性化案を提示してくれることを期待しています。

子ども達からの提案を実現した冬のイベントである「しゃっこいフェス」が高校生の「浦幌部」や北大生も協賛して晴天の中で大勢の子ども達が集まり、親子連れで楽しむ姿が見られました。今年が開町120年を記念して「うらほろ冬火花」を前夜祭として行いました。

町内外から3千名以上の人たちがお集まりいただき、清んだ冬の空に6千発の花火が打ち上げられました。想像していた以上に大掛かりな花火に野球場内で観戦した人たちが真上で大輪の花が開くたびに感動の大

歓声が上がりました。

共催していただいた十勝毎日新聞社の日本一といわれる花火大会の手法が活かされたものであり、改めて十勝毎日新聞社や多くの皆様にご後援をいただいたことに感謝とお礼を申し上げます。

浦幌町の平成31年度予算は地方統一選挙を控えていることから骨格予算となり、義務的経費、例えば人件費や返済金である公債費などを3月の第1回定例議会に提案することになりました。継続事業や緊急に必要な事業なども予算（案）に計上しています。

3月議会では予算（案）審議とナイター議会での一般質問がありますので、多くの皆さんに傍聴していただき、町づくりにご理解をいただく機会になればと思います。

最近インフルエンザが流行していますので、皆様には感染しないように備えを十分にしていただくようお願いいたします。

浦幌町長 水澤一廣